

漢文 杜甫『春望』 定期テスト対策問題 | 形式・押韻・対句・現代語訳の頻出設問と
解答

組 番 氏名

/100点

本文

【白文】

① 國破山河在
城春草木深
② 感_レ時花濺_レ淚
恨_レ別鳥驚_レ心
③ 烽火連_ニ三月_ニ
④ 家書抵_ニ萬金_ニ
⑤ 白頭搔更短
⑥ 渾欲_レ不_レ勝_レ簪

【書き下し文】

- ① 国破れて山河在り
城春にして草木深し
② 時に感じては花にも涙を濺（そそ）ぎ
別れを恨んでは鳥にも心を驚かす
③ 烽火（ほうか）三月（さんげつ）に連なり
④ 家書（かしょ）万金に抵（あ）たる

- ⑤白頭（はくとう）搔（か）けば更に短く
⑥渾（す）べて簪（しん）に勝（た）へざらんと欲す

設問

- この詩『春望』の形式を、漢字の熟語で答えなさい。（ヒント：一句が五字、全部で八句）
- 『春望』の作者は誰か。漢字で答えなさい。
- 『春望』の作者は、その詩風から後世に何と呼ばれたか。次から選びなさい。
。ア 詩仙 イ 詩聖 ウ 詩仏 エ 詩鬼
- 五言律詩について、次の問いに答えなさい。
 - 第一・二句（はじめの二句）を何と呼ぶか。
 - 第三・四句を何と呼ぶか。
 - 第五・六句を何と呼ぶか。
 - 第七・八句を何と呼ぶか。
- この詩で韻を踏んでいる字（韻字）を、本文中からすべて抜き出さなさい。
- 前問の韻字は、何句目の末字に置かれているか。「第○句」の形で、あてはまるものをすべて答えなさい。
- 律詩では、原則としてどの二聯が対句になるか。聯の呼び名で二つ答えなさい。
- 第三・四句「感時花濺淚／恨別鳥驚心」が対句であることを、対応する語をあげて説明しなさい。（例：「花」と「鳥」が対応している、のように）
- 第五・六句「烽火連三月／家書抵萬金」も対句である。ここでは「公（おおやけ・戦乱）」と「私（わたくし・家族）」が対比されているが、戦乱を表す語と家族を表す語を、本文中から一語ずつ抜き出しなさい。
- この詩では、ふつう対句にしなくてよい第一・二句（首聯）も対句になっている。第一句「国破山河在」と対応している第二句を、書き下しで答えなさい。
- 傍線部①「国破れて山河在り」を現代語訳しなさい。
- 傍線部①「国破れて山河在り」について、次の問いに答えなさい。
 - 「国破れて」とは、何が原因で都（長安）が破壊された状況を指すか。歴史上の出来事の名で答えなさい。
 - この句は、人の世のはかなさと自然の不変とを対比している。後世、この句を「夏草や兵（つはもの）どもが夢の跡」の場面で引用した俳人は誰か。
- 第二句「城春にして草木深し」を現代語訳しなさい。
- 傍線部②「感時花濺淚」について、次の問いに答えなさい。
 - 「時に感じて」の「時」とは、どのような時世を指すか。簡潔に答えなさい。
 - 「感時花濺淚／恨別鳥驚心」の二句を現代語訳しなさい。（「花を見ても涙を流し…」のように）
- 傍線部③「烽火三月に連なり」について、次の問いに答えなさい。

1. 「烽火（ほうか）」とは何か。その意味を答えなさい。

2. この句全体を現代語訳しなさい。

16. 傍線部④「家書万金に抵（あ）たる」について、次の問いに答えなさい。

1. 「家書」とは何か。答えなさい。

2. 「抵（あ）たる」の意味を答えなさい。

3. この句全体を現代語訳しなさい。また、ここに作者のどのような心情が表れているか、簡潔に説明しなさい。

17. 傍線部⑤「白頭搔けば更に短く」を現代語訳しなさい。また、ここから作者のどのような様子が読み取れるか答えなさい。

18. 傍線部⑥「渾（す）べて簪（しん）に勝（た）へざらんと欲す」について、次の問いに答えなさい。

1. 「渾（す）べて」の意味として最も適切なものを選びなさい。

■ ア まったく・すっかり イ ときどき ウ ほんの少し エ ゆっくりと

2. 「簪（しん）」とは何か。また、それは当時どのような身分・立場の象徴であったか答えなさい。

3. この句全体を現代語訳しなさい。

19. 句法について、次の問いに答えなさい。

1. 「勝（た）へず」とは、ここではどのような意味か。「～できない」を使って答えなさい。

2. 「～んと欲す」は、どのような意味を表す言い方か答えなさい。

20. この詩で、作者が嘆いている季節はいつか。漢字一字で答えなさい。また、その季節であることが詩の主題とどう関わるか（情景と心情の対比）を簡潔に説明しなさい。

21. この詩の主題として最も適切なものを、次から選びなさい。

- ア 友人との別れを惜しむ悲しみ
- イ 戦乱の世を嘆き、離ればなれの家族を思う気持ち
- ウ 出世できないことへの怒り
- エ 春の景色を楽しむ喜び

22. この詩には、戦乱で荒れた都の姿と、変わらず巡ってくる自然の春とが描かれている。このように、人の世の「はかなさ・移ろいやすさ」を感じ取る考え方を、日本の古典でよく用いられる語で何というか。

（ヒント：「もののあはれ」とも近い、世の移ろいをはかなむ感覚）

23. 『春望』の作者が生きた時代に起こり、この詩の背景となった大規模な反乱を何というか。漢字で答えなさい。

24. 次の文の空欄にあてはまる語を答えなさい。

『春望』は（ あ ）詩の代表的な詩人である杜甫が、（ い ）の乱で都長安が占領されたときの心情をうたった（ う ）言律詩である。」